

## 大仙市主催 ワークショップ



企画案を発表する高校生

## 地域の課題こう解決

### 高校生、企画案を発表

大仙市主催のワークショップでイベント企画づくりに取り組んでいた高校生が、市の花火伝統文化継承資料館はなび・アムで地域課題解決に向

9人が参加。市出身者ら市と関わりのある大学生4人の指導を受けながら、地域課題を洗い出し、解決策を考えてきた。

企画案の発表は16日であり、高校生は市職員や地域おこし協力隊員に披露。市教育委員会が小中学生向けに行っている事業「大仙ふるさと博士」を高校生や大学生向けにアレンジするアイデアを示した。行事に参加するなどして地域について学ぶポイントがもらえる仕組み。「地域の魅力に触れて、愛着を持ってもらいたい」と訴えた。

ワークショップは、若者に地域の一員として自覚を持つてもらい、将来的な定着につなげる目的。大曲工業の藤田優真さんは「地元がたくさん良いところがあるのに、知られていないと感じた。これまでもあまり考えてこなかったが、どうしたら地域が良くなるか考える機会になった」と語った。

(佐藤拓)